

- 1 夜の銃声のためにマツチ擦る
- 2 さびしい両手がある
- 3 両手で夕やけあつめる
- 4 五本の指をふちどる
- 5 窓に切りぬかれた海がある
- 6 明りに汚れた手をかざす
- 7 さびしい月明りに蟻がならぶ
- 8 つめたい足のうらのこす
- 9 五本の指に雨の点滴
- 10 試みた夜の数が雨音
- 11 死んで朝のしづく受ける
- 12 一日のパンをふたつに分ける
- 13 私の真ん中に雪が降っている
- 14 夜のまなざし耳鳴りとなる
- 15 雨がつめたい朝の体温
- 16 何もない部屋に海がみえる
- 17 理由のない昼に背がとどく
- 18 固いペン先に遺書のこす
- 19 冬空にそっと爪切り捨てる
- 20 白昼のしずけさに遺書のせる
- 21 コップに死をひとつ置いてみる
- 22 余白となる月下に蟻がいる
- 23 雨の余白に埋める
- 24 薬局の明りに手をのばす
- 25 何もなく降る雪を見上げる
- 26 クレヨンで画いた四月が笑ってる
- 27 パスタで始める十二歳（じゅうに）の純情
- 28 石鹸買って春は夕ぐれです
- 29 かくれんぼ始める夕焼けです
- 30 セロテープ五月の空をくつつける
- 31 海の色褪せて少年の匂いのこす
- 32 衿元に風ためている向日葵です
- 33 雨を生まれたばかりの色でかく
- 34 幼児にさす夕日のあしあと
- 35 夜のテーブルに右手なくす
- 36 ゴーギヤンの少女と麦踏む一月
- 37 月食の夜なくす海辺のピアノ
- 38 亡クシタ児ト食事シテイル
- 39 夕焼ニ私トイウ現象
- 40 掌ヲ置ク
- 41 オキシフル発火する幼児の死体
- 42 未明の胎児にピカソの青
- 43 感光する午後二時の声
- 44 気管支凍てる白日のピエタ
- 45 五月に溶ける少女の楽譜
- 46 サークアの少年と痩せた馬
- 47 夜を拾う孤児に薄荷の匂い
- 48 夕やけのしづく落ちる片方の手
- 49 海にひかる少女のあしあと
- 50 背に降るひかりのしずけさ

- 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51
- 遺児のため二月の詩集燃やす
 二月の遺体につめたい蒼溶かす
 月下の浴槽にうづくまる女
 外科室のひかりに白い蝶
 人殺しの夜にテーブルを拭く
 プールの水面に死の匂い置く
 盲目ノ少女ノ死ニ会ウ
 昼顔につめたい針金を刺す
 時計の針折る
 掌にさびしい雨の匂い
 電線ニ児等ノ声ノコル
 産声止ム朝ノトナリ
 洗ッテモサビシイ手
 中絶の夜に降る雪に死ぬ
 月明りに湿ったナイフある
 階下に亡き少女のクラヴサン
 ブランコに捧げる月と短銃（ピストル）
 孤児の手にピストル焦がす
 教科書に降る手のひら
 少女に雨の匂いともす
 鉄格子に置く月明り
 あいまいの夜過ぎる雨
 洗面器にうつる長い夜
 自殺者の遺失物さす月明り
 しずかな空に縊死がある
- 100 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76
- 二月ただ傷口に燐寸（マッチ）捨てよ
 麦畑に錆びたハモニカ
 指に汚れた爪がある
 院内に足音を置く
 窓明りに手をひらく
 処女のためピストル犯す
 夜明け犯す錆びた歯
 空がつめたい火事となっている
 理由のない夜に雨が降る
 銀紙で空のかたちをつくる午後（ひる）
 夜にもたれている椅子がある
 狂った月に哭（な）く犬殺す
 昼のつきあたりに立っている
 両手浸すつめたい
 雨に骨埋める
 窓に病んだ手をあてる
 いつか緑青の悲しみ降る
 階段の日だまりに置くコップ
 長い夜の分針を見る
 煤けた背中ある
 六月の断片を窓にあつめる
 死者のカルテ燃える時計店
 画室（アトリエ）の死の痛みへと葦置く
 靴下に真昼の死を入れる
 死ぬ理由もなく雨にぬれる